＜全国納税貯蓄組合連合会会長賞＞

納税のバトン

大玉村立大玉中学校　２年　國分　穂乃花

「税金来るから、銀行に行ってくっぺ」

毎年４月、曾祖母は決まってそう言って銀行にお金を入れに行っていた。そして曾祖母を銀行に連れていくのは、いつも母の役目だった。

曾祖母はどんなに忙しくても、どんなに年をとっても、一度も忘れることなく税金を納めていた。そして、ずっと曾祖母を銀行に連れて行っていた母は、奨学金を借りて学校を卒業し、公務員になった。

母はいつも、

「大事な税金でお給料をもらっているんだから、無駄にはできないんだよ。」

と言う。職場でも、紙１枚、クリップ１つも無駄にしないように大事に使っていると言っていた。それはきっと、体が不自由になり、大変な状況になっても、必ず自分で納税していた曾祖母を間近で見ていて、税金の大切さを身にしみて感じているからだと思った。

テレビやネットで、

「公務員は税金泥棒だ。」

「税金で生活しているくせに。」

などといった言葉を目にすることがある。しかし、納めてもらった税金を無駄なく大切にしながら、責任感をもって毎日仕事に向き合っている母を見ていると、そんな言葉が悲しく私の心に

突き刺さった。

私は、多くの公務員の方は、自分の利益を考えずに、住民のために頑張っていると感じている。警察官や消防士、自衛隊など、危険な任務に就いている人もいる。日本の基盤や安全を守るためにも、公務員は大事な仕事だと思う。

曾祖母は83歳で亡くなるまで税金を納め続けたが、たくさんの恩恵も受けた。

自宅の手すりの設置や介護ベッドのレンタル、医療費の窓口負担の軽減など自分が誰かを支えてきた分、晩年は支えてもらっていた。

曾祖母が亡くなり、レンタルしていた介護ベッドが業者の方によって回収されていく時は、さみしい気持ちと同時に、納税で支えてくれた見えない誰かに感謝した。

私の将来の夢は小学校の先生になることだ。今は希望の高校を目指して勉強にはげんでいるが、私が使っている教科書も、快適に勉強できるための設備も、誰かが払ってくれた税金でまかなわれている。誰もが平等に学べるように、中学生１人あたり、約 109 万円の税金が補助されている。曾祖母のように、誰かが一生懸命納めてくれたお金だ。やはり私には、一生懸命勉強する責任があるのだ。

小学校の先生になる夢を実現させたら、沢山の人に支えられて過ごしてきたことを思い出し、未来を作る子どもたちを大切に育てていきたい。そして私も、曾祖母が大切にしてきた納税の気持ちを受け継ぎ、人のためになれる大人になりたいと思う。